国際書展新春展　産経新聞社賞

日本の伝統文化 代々つなぐ

習志野在住 岩田綾佳さん

「今回の受賞は、今後の自信になります」

受賞作は、中国盛唐の詩人、杜甫（712～770年）による漢詩「春宿左省」（春、左省に宿す）を題材にし、隷書で書き上げた。「ポイントは真っすぐ書くこと、そして字の左側に墨量を置くように努めたこと」といい、所属する日本書蒼院の宗像翠龍師匠に、書いた作品画像を送って指導を受けた。

書は6歳のとき、近所の教室に通ったのが始まり。以降、書くことが好きになり、書道学校でも勉強し、師範免許も取得した。

転機は平成23年、地方公務員を辞めて書道一本に絞り、自宅で「習志野書道教室」を開業。同28年には、近隣に思い切って教室を開き、新たなスタートを切った。現在、小学生らを教えている。

「子供の成長過程に参加できてうれしい。書道は登録無形文化財にもなったので改めて価値を感じている。日本の伝統文化を代々つなげていきたいですね」。そう意欲を語った。

産経新聞社賞を受賞した岩田綾佳さん

◇

「第38回産経国際書展新春展」（産経新聞社、産経国際書会主催）が26日から2月7日まで、東京都港区の国立新美術館で開かれる。本県から一般公募の部の最高賞、産経新聞社賞に輝いた3人を紹介する。

＝随時掲載

岩田綾佳さんの受賞作品。杜甫の漢詩「春宿左省」を題材に書き上げた

国際書展新春展　産経新聞社賞受賞

活動の幅を広げていきたい

新井紫燕さん

26日から2月7日まで東京都港区の国立新美術館で開かれる「第38回産経国際書展新春展」（産経新聞社、産経国際書会主催）で、東京都からは練馬区の会社員、新井紫燕（しえん）さん（31）が一般公募の部の最高賞、産経新聞社賞に輝いた。

「受賞は驚きと身が引き締まる思いです。ご指導くださった宗像翠龍先生（日本書蒼院常任理事）に感謝しています」と語る新井さん。

題材は、中国盛唐の詩人、李太白（り・たいはく、701～762年）による漢詩「聞王昌齢左遷龍標尉遙有此寄」（王昌齢の竜標の尉に左遷せらるるを聞き、遙かに此の寄有り）。書体はこれまで隷書中心に活動してきたが、今回、考古学的には青銅器銘文と称される「金文」に初挑戦し、受賞を成し遂げた。

「一字の中で墨の量や線の太さといったメリハリ、そして他の文字との余白や調和が難しかった。俯瞰（ふかん）してみたときに全体のバランスの美しさに一番こだわりました」

書道は小学校6年間、近所の習字教室に通い、しばらく離れていたが、大学4年生で再開した。「今後は仕事として書道をメインに切り替え、映像やタイトルなど幅広い分野ともコラボレーションしながら活動の幅を広げていきたい」と新井さん。ますます精進していく構えだ。

産経新聞社賞を受賞した新井紫燕さん